

予報期間 7月14日から7月20日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第5号については最新の台風予報を参照。
- 16日から18日にかけて、太平洋高気圧を回る湿った空気が日本付近に流れ込みやすい状態が続く。
- 19日から20日にかけて、太平洋高気圧の張り出しが強まり、本州付近を広く覆う。

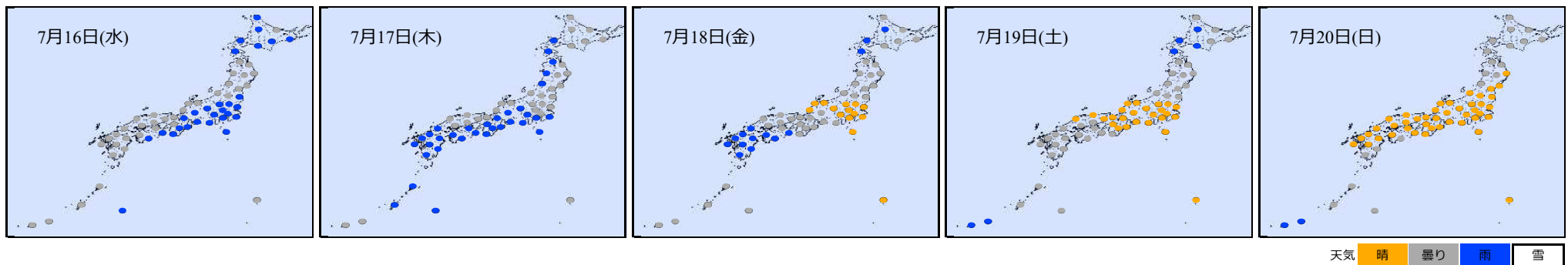
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 17日頃にかけて、東日本から西日本の太平洋側を中心に、暖かく湿った空気の流れ込みの程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 16日にかけて、北日本から東日本にかけての太平洋側では、気圧の傾きの程度によっては荒れた天気となり、大しけとなるおそれがある。
- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

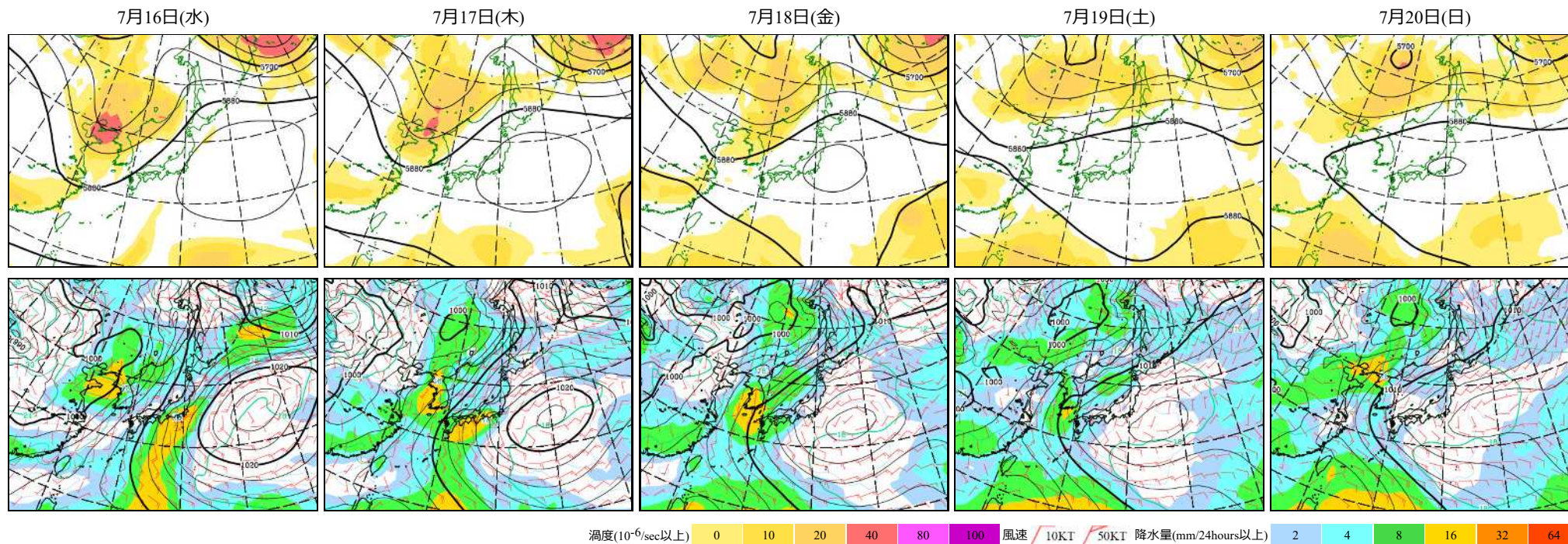
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

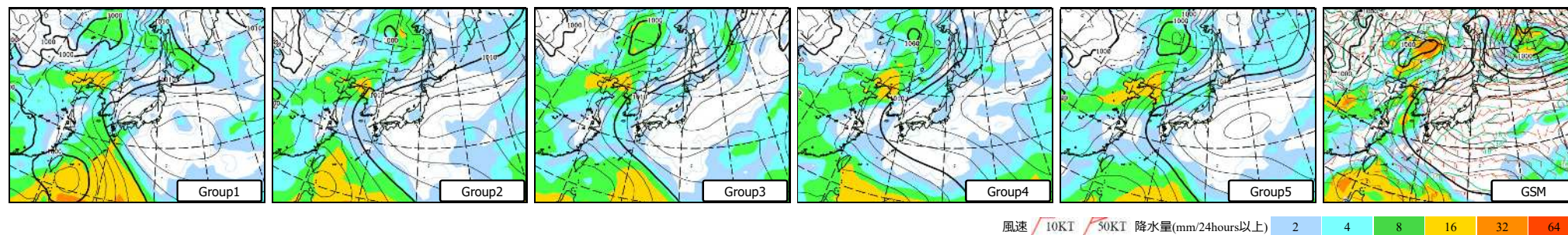


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、20日は晴れる所もある。
- 東日本は、16日から17日は曇りや雨の降る所が多いが、18日から20日は晴れや曇りとなる。
- 西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、19日から20日は晴れや曇りとなる。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間を通してサハリンからオホーツク海付近を進むリッジが強まり、16日から18日にかけて黄海から朝鮮半島付近に進むトラフが深まる傾向となった。地上は、期間の後半を中心に太平洋高気圧の日本付近への張り出しがやや強まる予想となった。
- 上空の流れや地上の気圧配置について、モデル間の差は比較的小さい。一方で、期間の後半には各モデル熱帯じょう乱がフィリピンの東付近に予想されているが、その後の発達程度や進路等についてはモデル間の予想に差が大きくなっている。ENSメンバーの中には、熱帯じょう乱がまとまって20日頃に沖縄地方付近に接近する予想も1割程度存在する。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。